

平成19年度八重山群島病害虫発生予報第6号(9月予報)

9月の気象予報

向こう1か月間の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	気 温	降 水 量	日照時間
高い(多い)	30	30	40
平 年 並	50	30	30
低い(少ない)	20	40	30

(平成19年8月24日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

地点別の平均値

要 素	平均気温()	最高気温()	最低気温()	降水量(mm)	日照時間(h)
八重山群島(石垣島)	27.7	30.5	25.5	227.7	203.6

(沖縄気象台発表・統計期間1971～2000・資料年数30年)

9月の発生予報および防除上の注意事項

向こう1か月間における農作物の主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

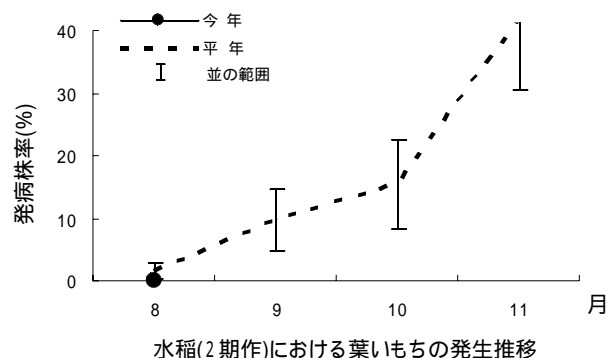
八重山群島

1 水稻(2期作)

(1) 葉いもち

発生程度 : 並
予報の根拠

- a 8月下旬の調査の結果、発病株率は0%(前年2.0%、平年1.6%)であった。
- b 気象予報によると向こう1か月間の降水量の少ない確率は40%であるが、台風の襲来によっては稲体の被害と一時的な降水量の増加により本病の発生が助長されやすい。



防除上注意すべき事項

- a 窒素肥料の多用は本病の発生を助長するので、適切な肥培管理を行う。
- b 稲体の耐病性は苗代期～分けつ期および穂ばらみ期～出穂期に最も弱いので、この時期の感染や胞子の飛散前の防除に重点を置く。

斑点米カメムシ類の防除対策

- a 8月下旬の水田でのすくい取り調査ではアカカメムシやホソハリカメムシが確認された。
- b カメムシ類は畦畔や農道の雑草地に生息しており、出穂後水田内に移動するため、定期的な除草などにより密度を抑える。なお、出穂期前後の除草はカメムシ類を水田に追い込むので極力控える。
- c 出穂後、やむを得ず水田周辺を除草する場合は、刈り取り後直ちに本田薬剤防除を実施する。
- d 薬剤防除は、基本として穂揃期とその7～10日後の2回実施する。その際、地域で一斉防除を行うことでより効果が高まる。

2 マンゴー

栄養生長期の病害虫防除対策

- a 8月下旬の調査の結果、一部の施設でチャノキイロアザミウマや軸腐病が多発していた。
- b この時期の不要な新梢は、チャノキイロアザミウマの発生源となるため、ビニール袋に入れるなどして、施設外に持ち出し処分する。
- c チャノキイロアザミウマは雨に弱いことから、灌水を兼ねて動噴で洗い流すと密度低減につながる。
- d 1回の薬剤散布で効果が出にくい場合は、一週間程度の間隔で数回行う。
- e チャノキイロアザミウマは薬剤抵抗性が発達しやすいことから、同系統薬剤の連用を避ける。
- f 軸腐病対策のため、剪定後直ちにゆ合促進剤を塗布し、多発している施設では薬剤散布を実施する。
- g 台風前後には銅水和剤による予防的な防除を実施する。